「子どもたちが主役の授業」の実現に向けて

都城市教育委員会

「子どもたちが主役の授業へ、**自分の授業を変える必要がある**」と考える先生方の割合（都城市）

98.2%

わ　教師主導による指導から「主体的な子どもの学び」へ

教師主導による指導

- 教師が一方的に話しており、子どもたちは、聞くだけになっていませんか。
- 教師が待ちきれず子どもたちの発言を誘導していませんか。
- 話合いが正解を出し合うだけの単調な発表になっていませんか。
- 教師の指示や発問に対して、特定の子どもだけが発表するキャッチボール対話になっていませんか。

脇役に徹する
教師が説明する時間を短くし、子どもたちが活動する時間を確保する。

Courage to
CHANGE

「主体的な子どもの学び」を後押しする教師

- 一人一人の子どもの考えの一端をつかみます。
- 子どもたちが自ら、学び方を決め、使う文具（アプリ）を選択できるよう後押しします。
- 一人一人の子どもたちが多様な考えをアウトプットできるよう後押しします。
- 子どもたちが自分たちで、学級やグループの考えをまとめられるよう後押しします。

さ

先を読む
子どもの反応・変化や話合いの展開を予想し、必要な発問や指示を与える。
〇「この発問で、こんな考えが出てくるだろう。」
〇「話合いがそれた場合は、補助発問をしよう。」

び

微細な変化に気付く
１人１台端末等で一人一人の考えの一端を知り、思考の流れやその変化に気付く。
〇「考えが変わった。理由を聞いてみよう。」
〇「おもしろいつぶやきだ。考えを聞いてみよう。」

学級経営

心理的安全性　自分のよさや可能性を認識　自己存在感や自己決定の場

多様な人々と協働　ウェルビーイング　あらゆる他者を価値のある存在として尊重